

新年のご挨拶

資源循環事業活動報告
ゼロエミッション研究会

森林再生事業活動報告
日向の森、あいち海上の森



新年おめでとうございます。

旧年中は皆様からの温かいご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございました。

長期化する新型コロナウイルスやウクライナ紛争によって皆様方の事業におかれましても影響を受けていることと存じます。

そのような状況下、昨年11月に第27回気候変動枠組条約締約国会議(COP27)がエジプトで開催されました。気候変動が世界に及ぼす脅威は留まることがなく、最重要課題として「損失と損害」について議論され、「損失と損害」を受けた国々への支援についての基金を創設することが合意されました。さらに、12月に国連生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)がカナダで開催され、最終日まで熱い議論が交わされ、世界の陸と海の少なくとも30%を保全すること(30 by 30)を柱とする2030年までの新たな生態系保全目標で合意されました。資源循環事業と森林再生事業に取り組む公益財団法人として、脱炭素社会ならびに生物多様性に貢献していく必要があると考えています。

また、資源循環事業では、「食品リサイクルループの構築と拡大」を最重要課題に据えて取り組んでいます。2022年度中は京都市での構築、2023年度中には東京23区での構築ができるよう準備を進めています。多様な排出企業が共同で食品リサイクルループに取り組む仕組みを構築できたことで、京都市では外食業だけでなく、小売業や宿泊業など業種の垣根を越えて共同で取り組むことができました。まだまだ小さな輪ですが、自治体、食品関連事業者、再生利用事業者(リサイクラー)、生産者、そして消費者との協働で、1社でも多くこの仕組みにご参加いただけるよう取り組んで参ります。

森林再生事業では、現在5地域86haの森林保全協定を結んでいます。感染症対策を講じながら、各地域の状況やそれぞれの森林の状態に合わせた活動を継続して参りました。

事故なく安全に活動できたことは、参加して下さった皆様の熱意と協力のお陰と、改めてお礼を申し上げます。昨年は、気候変動対策だけでなく、生物多様性も意識した森林保全活動を行うことができました。本年も引き続き、生物多様性を意識した森林保全活動を行って参ります。

2030年のSDGs目標年度まで、あと7年となりました。美しい地球を未来の子どもたちに残していくためには、一人一人が地球環境の大切さに気づき、意識を変えていかなければなりません。事業を通して社会に影響を及ぼす存在になれるよう、SEFは、資源循環事業では新たなリサイクルループの構築、森林再生事業では森林保全活動の継続を今年も精一杯取り組む所存です。

輝かしき新春を迎え、皆様のご多幸をお祈り申し上げますとともに、一層のご支援をいただきますようお願い申し上げます。

2023年 元旦

公益財団法人
Save Earth Foundation
代表理事 渡邊 美樹



<ゼロエミッション研究会とは>

当財団では、ゼロエミッションの実現に向けて、2017年より食品小売業・外食産業の店舗から発生する廃棄物(特に食品循環資源)の発生抑制・資源循環・適正処理の手法を学ぶ場として、「ゼロエミッション研究会」を開催しています。

第4回ゼロエミッション研究会

11月17日(木)に、今年度4回目となるゼロエミッション研究会を開催しました。42社73名の方にZoomとのハイブリット勉強会にご参加頂きました。今年度のテーマは、京都市での食品廃棄ゼロエリア構築です。今回は、11月から活動開始した食品廃棄ゼロエリア京都プロジェクトについてと、愛知県のコーヒー豆カスリサイクルの進捗について行いました。京都プロジェクトは、参加店舗で計量機を設置し、食品残さと食品ロスを分別・計量し、その上で食品廃棄物のデータ分析をします。分析にご協力いただく京都大学 浅利美鈴准教授に「廃棄物計量による調査や分析に期待すること」についてご講演いただきました。また、参加店舗は12月から「京都市食べ残しゼロ推進店舗」制度を通して、消費者への啓発活動を促進します。京都市様と連携しながら進めていきますので、京都市環境政策局の木屋範久氏に「京都市食べ残しゼロ推進店舗として取り組んでいただきたいこと」についてご講演いただきました。

廃棄物計量による調査や分析に期待すること

京都大学 大学院地球環境学堂 准教授 浅利 美鈴氏

浅利准教授より、廃棄物の調査・分析について、①分類別の発生量データ取得、②計量実証に参加した事業者(現場の従業員の方を含む)の意識・行動変化(見える化の効果)、③実態を知った消費者の意識・行動変化(見える化の効果)の3点を行うとお話がありました。また、事業者と消費者の食品ロス、食品廃棄の意識調査の結果をご紹介いただきました。計量することで発生量データの実態把握、そのうえで従業員や消費者との対話と対策の効果を検証し、PDCAにつなげることが今回の実証で行いたいということでした。



京都市食べ残しゼロ推進店舗として取り組んでいただきたいこと

京都市環境政策局 資源循環推進課
担当課長補佐 木屋 範久氏

京都市で推進している食べ残しゼロ推進店舗認定制度の紹介、「京都市食べ残しゼロ推進店舗」認定を受けた店舗の取り組みについて、啓発用ポスターやステッカー、持ち帰り容器やカードなどのツールのほか、実際に店舗でのお客様への呼びかけについてのお話をいただきました。お客様から持ち帰りを言い出すのは抵抗がある場合があるので店舗で積極的に声をかけていただきたいということでした。

2022年度ゼロエミッション研究会 参加者募集

【日程】全6回

終了●第1回—5月19日(木) 終了●第2回—7月21日(木)
終了●第3回—9月15日(木) 終了●第4回—11月17日(木)
●第5回 1月26日(木) ●第6回 3月23日(木)

【勉強会 会場】ワタミ株式会社 東京(大鳥居)本社

【参加費】70,000円

※賛助会員(民間団体)は無料

※別途:見学会交通費、遠方への個別相談時交通費

【講師】

- ・百瀬則子氏
(SEF業務執行理事、ワタミ株式会社SDGs推進本部長)
- ・志岐秀明氏
(SEF理事、株式会社ガイドリーム代表取締役)
- ・牛久保明邦氏
(SEF顧問、東京農業大学名誉教授)

ほか、資源循環・廃棄物関連専門家多数登壇予定

★概要をご確認のうえ、SEFホームページからお申込みください。 <https://save-earth.or.jp/archives/8599>

森林再生事業 活動報告

日向の森、海上の森で 森林保全活動を実施しました！

日向の森・ウッディミナミの森で森林保全活動
※2022年10月～12月

活動日	場所	イベント	参加人数	
10月	8日	日向の森	定例保全活動	10名
	29日	日向の森	定例保全活動	17名
11月	6日	日向の森	子どもスマイリングプロジェクト林業体験	20名
	12日	日向の森	定例保全活動	17名
12月	10日	日向の森	定例保全活動	10名
	17日	あいち海上の森	保全活動	24名
	24日	日向の森	定例保全活動	15名

2021年4月～2022年12月末までの累計

日向の森 **563名** あいち海上の森 **59名**

ウッディミナミの森 **10名**

◎日向の森(千葉県山武市) 活動報告

12月10日(土)、千葉県山武市の日向の森で森林保全活動を行いました。

10名が参加し、午前中は2本間伐を体験し、手分けして枝打ちや倒木を運搬しました。

間伐した木はとても重く、2メートルに分けた木でも大人6人でないと運搬できないほどです。今回間伐したサンブスギは、資材として搬出する予定です。

午後は、新しいノコギリの刃と古い刃を20枚分交換しました。

早速、刃を交換したノコギリを使って、サンブスギ林の枯れ枝を手分けして枝打ちしました。広く伸びた枝葉を切落としたので林内が若干明るくなりました。おかげで、スギが真っ直ぐ成長し、伐採した木材が美しい木目になれるような手入れが出来ました。



◎あいち海上の森(愛知県瀬戸市) 活動報告

SEFでは、特別賛助会員企業のワタミグループと愛知県との3者で、愛知県の県有林「あいち海上(かいしよ)の森」(愛知県瀬戸市)における森林保全協定を2020年4月1日付けで締結しています。

12月19日(土)にボランティア・スタッフ合計24名の大人で森林保全活動を開催しました。主にボランティアでは愛知県や静岡県ワタミの宅食事業部社員に参加して頂きました。ワタミの森では人工林の育成管理のため、5月に実施した森の健康診断の結果を元に、よりよい木々を残し、10年かけて斜光が入りやすい健全な森を目指すことにしました。

そこで、曲がった木や細い木、太すぎる木を除き、整った木を「イケメン木」とし、選びました。イケメン木を拠点に3.2メートルロープで間隔を測り、再びイケメン木を選びます。その結果、1年間で50本間伐し、10年かけて500本間伐する計画になることが分かりました。



午後は、山でツタや木の実、葉っぱ等を拾った素材を使って、クリスマスリースを工作しました。今回、クリスマスリースに使ったツタやツルは、木々に絡まり木の成長を阻害します。そのため、ツタ、ツルを木からはがすことは、森の育成管理につながってきます。

大人も子どもも関係なく、みんな一生懸命リースを編んで、素敵な飾り付けを行っていました。





SEFでは、各地域での森林保全活動をお手伝い頂けるボランティアさんを募集しています。

千葉県山武市では原則として毎月第2・第4土曜日に定例活動を行っているほか、他地域でも年数回の活動を実施しています。

なお、活動実施にあたり感染症の拡大防止に最大限の配慮を講じてまいります。

下記リンクから確認事項等ご参照のうえ、ご参加をお願いいたします。

<https://save-earth.or.jp/archives/6783>

<2023年1月～3月の活動予定>

●千葉県山武市(日向の森)

※引き続き、2018年の台風15・19号による被害を受けた人工林の復旧作業を中心とした活動を予定しています。

1月14日(土)、1月28日(土)

2月11日(土)、2月25日(土)

3月25日(土)

●愛知県瀬戸市

(あいち海上の森)

3月11日(土)

※その他地域での活動予定については、SEF ホームページをご覧ください。

活動の詳細、お申込みはコチラ ▶▶ <https://save-earth.or.jp/event>

賛助会員・サポーター入会のご案内

SEFの活動は、皆さまからのご支援に支えられています。

「美しい地球を未来の子どもたちに残したい」。この思いにご賛同いただける皆様のご入会をお待ちしております。

企業・団体	会員特典			
	<ul style="list-style-type: none"> ・食品リサイクルループ構築支援 ・「企業の森づくり活動」支援 ・廃棄物法令、食品リサイクル、廃棄物管理等の専門家による助言・指導 ・「ゼロエミッション研究会」など、各種セミナー等へのご招待・ご優待 			
個人	会員区分	特別賛助会員	1 □	500,000 円
	年会費	賛助会員	1 □	50,000 円
		資源循環サポーター	1 □	50,000 円(資源循環事業に用途を限定)
		森林再生サポーター	1 □	50,000 円(森林再生事業に用途を限定)
会員特典	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゼロエミッション研究会」など、各種セミナー等へのご招待・ご優待 ・森林ボランティア活動参加者に千葉県産サンプスギ製「サポーター登録証」を発行 			
会員区分	賛助会員	1 □	10,000 円	
年会費	資源循環サポーター	1 □	1,200 円(資源循環事業に用途を限定)	
	森林再生サポーター	1 □	1,200 円(森林再生事業に用途を限定)	

ご入会のお申込みはこちらから→<https://save-earth.or.jp/member/apply>

